

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2024/12/27】

**男子3位決定戦**

広島県選抜

9

1	—	4
3	—	5
3	—	4
2	—	2

15 三重県選抜

PSO

審判： 伊藤 晃二  
黒崎 千智

この試合のプレー集計

広島県選抜	26	SH数	28	三重県選抜
	2	速攻数	8	
	12	ST・SB	15	
	6	SH・P誘発アシスト	3	
	35%	GK阻止率	44%	
9	EX反則数	5		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

**【試合の流れ】**

今大会で最も成長したのが広島。予選リーグ初戦と同一カードとなった三重戦ということで、成長度合いを測れる絶好の機会となった3位決定戦。初戦の三重戦では、第1ピリオドでの連続失点が響いた形だったが、試合が進むにつれて、スローペースの展開で主導権を渡さない形であった。そのことを考えると、試合の入り方が広島にとっては重要となる。三重としては、広島ペースの展開となっても、泳ぎからの流れでゲームを支配したいところ。特に、三重は広島のスローペースにはまるとオーバータイムに陥りやすくなり、そこから失点するというパターンを防ぐことが重要となる。

1P

予選リーグ初戦の第1ピリオドと似通ったスタート。三重がボールを支配し、広島の攻撃は前線まで運べない展開。ボール接点での攻防で三重側がボールを奪うと、ピリオド中盤に連続得点。さらに広島の速攻SHを三重⑦岩本がブロック。そこから三重の速攻となり、⑭千葉が決めて3連続得点。このパターンは予選リーグ初戦と同様で、この時も三重の3連続得点という展開であった。広島はなかなかチャンスがつかめなかったが、終盤の攻撃時に三重GK⑬植田がボールから目を離した瞬間を見逃さなかった広島③功野がミドルシュートを決めて1点を返した。が、その直後、三重はゴール前で退水を奪って④山内が決めて、広島1-4三重で第1ピリオド終了。

広島の攻撃時に、スピードが不足している状況でも多くの選手が三重エリアにまで入り込んでいて、そこでボールを奪われるとDFが追いつかなくなるという状況であった。人数をかけての攻撃を選択するならばスピードアップが必要で、そうでなければ、2~3人攻撃で活路を見いだすという状況判断にやや問題があった第1ピリオドであった。

2P

広島は攻撃を少し軌道修正し、得意のスローペースへ。三重がそのパターンに追従してしまい、攻撃全体がスローダウン。危惧されていたオーバータイムを起点に広島に先手を取られ、退水から⑭上田が決めて広島2-4三重と点差を詰めた。そこで三重は切り替えて、テンポアップ。立て続け3連続得点をあげ、一気に広島2-7三重と点差を広げた。ピリオド後半は、両チームともにペナルティ誘発や退水からの得点で加点し、広島4-9三重で前半を折り返した。

3P

余裕の出た三重が、三重らしいリズム感のあるボール運びから⑤大賀や④山内が加点して、広島4-11三重とさらに点差を広げる展開に。広島の得点源⑭上田は三重に上手く守られてしまい、この大会で見せてきたボールキープがなかなかできない。そこを⑩田川や③功野が左サイドからシュートを決めて必死に追いつがる形で第3ピリオド終了(広島7-13三重)。

4P

少しでも点差を詰めた広島であったが、開始早々のセンターボールからの三重の攻撃を止められず、広島7-14三重とダブルスコアにまで点差を広げられた。その後、三重の攻撃オーバータイムを起点にして、ようやく⑭上田がセンターSHを決めるが、その後の反撃も続かず、最終的に広島9-15三重という結果で、三重の第3位、広島が過去最高の第4位となった。

広島としては結果的には三重に連敗した形で、実力差はまだあることが判明したわけだが、予選リーグの石川戦で見せたような中盤DFでの粘りによってシュートを打たさない水球スタイルが本物になれば面白い存在となっていくであろう。三重は準決勝の大垣戦での打ち合いで敗れたことが痛かったが、これからもこの東海勢で切磋琢磨して成長してもらいたい。